



## 名古屋部会(第 11 回)

|      |                             |
|------|-----------------------------|
| 日 時： | 2017年4月22日(土) 15:00 ～ 17:10 |
| 場 所： | 椋山女学園大学星が丘キャンパス(名古屋市千種区)    |
| 参加者： | 中学校・高等学校・大学の先生方など10名が参加した。  |

### 【内容要旨】

第11回の名古屋部会を経済分野の授業の展開や教材の紹介、カリキュラムの検討を目的に開催した。最初に水野英雄(椋山女学園大学現代マネジメント学部准教授)より新年度にあたり3年目となった経済教育ネットワークの名古屋部会の活動への協力の依頼と名古屋部会の会員の活躍として佐藤央隆氏(名古屋市立はとり中学校)の授業実践の『レインボーニュース』Vol.32への掲載、弓矢伸一氏(三重県立四日市商業高等学校)の指導した生徒のエコノミクス甲子園の全国大会への出場、渡辺力樹氏(愛知県立南陽高等学校)のSMBCコンシューマーファイナンス株式会社と連携した取組のACAP消費者問題に関する「わたしの提言」での最優秀賞・内閣府特命担当大臣賞の受賞について紹介があった。

引き続き、野間敏克氏(同志社大学政策学部教授)から経済教育ネットワークの最近の活動の紹介と2017年8月21日(月)・22日(火)の名古屋での夏休み経済教室への参加の依頼が行われた。

その後、3つの発表が行われた。佐藤央隆氏(名古屋市立はとり中学校)は「トヨタ自動車の社会貢献活動に関する授業実践」をテーマに企業の社会貢献を題材とした授業展開について発表した。地元の大企業で中学生の誰もが身近に感じるトヨタ自動車を社会貢献活動の観点から取り上げ、「トヨタマゴ」チラシと反射材シールを教材として活用し、具体的なトヨタ自動車の社会貢献活動を生徒が評価することで、企業が社会貢献活動に取り組むことの意義を考えさせる授業を行った。

山根栄次氏(三重大学教育学部)は「学校における経済教育の体系」をテーマに『三重大学教育学部研究紀要』第67巻・第68巻に発表した論文に基づいて発表した。市民・生産者として持つべき経済リテラシーを明確化した上で育成すべき経済社会認識の範囲を示し、それに基づいて小学校・中学校・高等学校の経済教育のカリキュラムを示した。多岐にわたる経済教育で取り上げるべき内容を児童・生徒の発達段階に応じてどの段階で教えるかを具体的に提案された。

水野英雄(椋山女学園大学)は「新科目「公共」と経済教育」をテーマに、新科目「公共」のもとでの経済教育の内容について発表した。2017年4月2日の日本公民教育学会の春季シンポジウムでの議論を踏まえて、学習指導要領の改訂により「何を教えるか」から「何ができるか」に移行しており、新科目「公共」では政治・経済・法・情報の各主体として良い公共的空間の形成に寄与するための教育が行われること、経済的主体としては市場における私的利益の追求を社会的利益とするための解釈と教え方について解説した。

各氏のお話の後には活発な議論を行った。最後に、水野英雄(椋山女学園大学現代マネジメント学部准教授)より学習指導要領が新しくなることは経済教育の意義を高めるチャンスであり、そのための研究や実践を深めていき、名古屋部会としても活発に取り組んでいきたいと挨拶があった。

次回については6月3日(土)に椋山女学園大学にて開催することとした。 文責： 水野 英雄

次回開催予定： 2017年6月3日(土) 15:00 ～17:00に、場所は椋山女学園大学星が丘キャンパス(名古屋市)。議題は、教材の紹介や経済教育の進め方に関するディスカッションほか。